地域おこし協力隊通信（No. 18）　体験すると景色が変わる

種子島に広がるサトウキビ畑。眺めるだけなら♪ざわわ～ざわわ～ざわわ～♪と心が癒されていました。ですが鎌を片手に畑の中で大汗をかいていると、そんな素敵なメロディーは風で吹き飛ばされてしまいました。

2月中旬から3月上旬の5日間、役場や関係団体の皆さんとオーギ倒しをしました。作付面積の減少を抑えるための優良種苗の刈り取りです。役場では、農林水産課から各課へ応援要請があり、5日間で総勢127人の職員が動員されました。もちろん手刈りです。

参加初日、何も出来ない私は『中出し』作業を割り当てられました。オーギを畑の端へ担ぎ出し、トラックに積みやすいようにワイヤーの上に積み上げる作業です。「大きく積まずに、小さく積むように」との指示だったので、オーギの曲がり具合を見て積む順番を変えたりして、パズルのように上手く積み上がるととても嬉しくなりました。

2日目は『きびる』作業です。オーギを束ねて結ぶのが仕事なので、即戦力になるべく結び方をインターネットで調べていきました。ですが開始早々にそれが役に立たないという事が判明。「こりゃアカン、作戦変更！！」と早速、現場仕様を習得すべく教えを乞うたのですが、これがなかなか覚えられません。「あれ？？」と最終的には『から結び』で誤魔化す始末。自分の不甲斐なさに嫌気が指し途方に暮れましたが、刈り倒されていくオーギは増えるばかり。「気持ちを入れんバヤ！」と切り替えてオーギを束ね、めげずに『きびり』を繰り返していると、なんとか最終的には『きびれる』ようになりました。

翌日、指の皮はむけ身体は激しい筋肉痛に見舞われました。たった数日だけの体験で語れる筈もありませんが、あらためて農作業の大変さを痛感しましたし、悠長に眺めていただけの風景には、受け継がれ守ってきた人たちの手が加わっていて、多くの汗が染み付いているという事を強く感じました。（松田）

梶屋良幸氏が選ばれる

平成29年度「たねやくきらめき表彰」

平成29年度「たねやくきらめき表彰」の表彰式が2月26日に県の熊毛支庁であり、島内で4人の方に表彰状が授与されました。

この表彰は、熊毛地域の発展や活性化に日頃より尽力されている個人や団体に対して行うもので、本町からは、サトウキビとでんぷん産業の存続および集落の営農維持を図るため、営農組合の設立などに尽力をされた、梶屋良幸氏（町山崎）が選ばれました。

左から梶屋良幸氏、大田熊毛支庁長

農林漁業者の経営基盤強化などを図る

「六次産業化に向けた農林水産業」研修会

研修会の様子

2月28日、「六次産業化に向けた農林水産業」研修会が中央公民館であり、一般の住民や関係者らが参加しました。

研修では、県農業・農村振興協会から講師が招かれ、六次産業化の内容や狙い等について説明がありました。

六次産業化とは、農林漁業者が生産だけでなく、加工、流通、販売に自ら取り組むことにより、経営基盤の強化や発展を進めることです。